エルゼビア社のData in Brief (「簡潔にまとめられたデータ」という意味の雑誌名)という学術英文雑誌に公表された浅所小学校児童たちの白鳥観察記録、内容要約

「1956年から2010年までの青森県浅所干潟における白鳥の飛来、飛去、個体数のデータ」

小形正樹：平内町中央病院　指導監　（もと平内町　教育委員会）、平内町白鳥を守る会 理事

三津谷武志：平内町白鳥を守る会 副会長

田中義幸：八戸工業大学 工学部　生命環境科学科　教授

＜論文要旨 和訳＞

青森県平内町浅所干潟における白鳥の飛来日と飛去日、および1日あたりの最大個体数が、1956年から2010年までの50年以上にわたって小学生によって記録されました。陸奥湾に面する浅所干潟は、「小湊のハクチョウおよびその渡来地」として国の特別天然記念物に指定されています。この長い観察の歴史は、残念ながら小学校の閉校で終わりました。気温の変化や鳥インフルエンザの影響などの環境要因に関するデータと一緒に分析した場合、このデータセットは価値のある情報源として活用される可能性が高く、将来の二次利用が大いに期待されます。

＜データの価値 和訳＞

•小学生が、白鳥の個体数の変動に関するデータを50年以上にわたって収集しました。

 •調査地と白鳥は日本の特別天然記念物に指定されています。得られたデータは、国および地域レベルでの行政決定に影響を与えるために使用できます。

•気温の変化、鳥インフルエンザの発生、人間の活動などの環境要因に関連して分析することに役立つ貴重なデータです。また、植生などの周囲の環境に対する渡り鳥の影響を推定するのに役立つかもしれません。昨年の成果として既に平内町には報告させていただいたように、この場所への渡り鳥の到着は、海草の分布に大きな影響を及ぼします。